

【教育目標 げんきいっぱい えがおいっぱい いきいき表現する



# きらき



新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和4年7月21日発行

## 子どもの歓声と学びを支える人たち

園長 青木博子

今日も水遊びが行われ、プールには水しぶきとともに、子どもの歓声が響いていました。

年少児が、小さなひしゃくでプールの水をすくっては、500mlのペットボトルに入れ、それを何度も繰り返していました。じっとペットボトルの口を見つめ、集中しているのが分かります。最後に水がいっぱいになったとき、ぱっと笑顔になり「いっぱいになった！」と担任に見せに行きました。また、ほかの子どもは、ペットボトルで作った手作りのじょうろからシャワーのように細く落ちる水に目を輝かせて見つめていました。子どもたちは、水の冷たさの心地よさ、落ちる水の美しさを感じているだけではありません。液体の形状が変わることや容量の感覚といった科学的な視点が確実に芽生えているのです。



年少児の水遊びは、年少の担任が中心となって準備します。朝、玄関前にクッションとなるマットを敷き、その上に滑り止めのマットを敷き、その上にビニールプールやたらいを置き、注水します。さらに、遊びに使う用具をまとめて置きます。用具はどれも子どもが扱いやすい大きさや形のものです。

年中、年長児は大きなプールに入り、様々な入れ物やビート板を使い、水で遊んだり、水の中で踊る楽しさや水の気持ちよさを感じたり、「〇〇泳ぎ」を楽しみながら水の中で身体を動かしたりすることを楽しんだりしていました。



年少、年中、年長組、それぞれ水遊びが終わると、職員が分担して、たくさんのマットやたらい、用具などの水洗いや、後片付けをします。その後、用務員が水を抜いてプールを洗い、きれいな水で流して注水します。



プールの準備は6月に入ってすぐに始まります。用務員が、少しずつ水を抜き、落ち葉などを拾うのです。ここでは、子どもたちと一緒に、楽しみにしているヤゴなどの生き物採集をします。その後も、水のつまりを確認しつつ、ゆっくりと水を落としていきます。そして、表面の汚れを落とします。それから全職員でプール清掃をします。その後、用務員は、さらに何回か仕上げ洗いをします。また並行して、草刈りをしたり、プールの中に枝葉が入らないように枝切りをしたり、プールサイドの側溝や落水枡の泥上げをしたりします。また、カラスが入らないように、高い位置にテグスを張り巡らせます。「黒ずみやぬるぬるなどを丁寧に除去、子どもが気持ちよく入ってくれることを考えて、環境づくりや準備をしています」と用務員は話しています。



さらに、用務員は、水遊びが行われる日の前日に、プールの水入れをします。朝は、まず、プールサイドをきれいに水で流すことから始まります。そして、パラソルやベンチをセットしたり、必要な機材をプールサイドに運んだりして準備します。その後、何人かの職員で水面にかけてある大きなシートを引き上げます。引き上げたシートはしばらく水を切った後、フェンスにかけてさらに乾かします。そして再度プールサイドを水できれいに流すのです。その後、プールに向かう園庭の地面に、緑のマットを敷き、裸足で歩く子どものために道を作ります。



また、養護師は気温水温の確認、水質検査はもちろん、プールとビニールプールそれぞれ、塩素濃度の確認や塩素投入を丁寧に行い、プールに入って水を攪拌します。そして、水遊びが始まれば、プールサイドで監視と救護を行います。



園児の歓声を思い浮かべながら、安全に水遊びができるよう、心を込めて環境づくりをする一人一人の職員の姿勢が、子どもの主体的な水遊びを支えています。